

2025/8/30 いわき市非核平和都市宣言40周年記念事業 特別講演会関係資料

(この資料は、当日、学生・生徒が発表した資料・内容を事務局(いわき市役所総務課)が抜粋・整理したものです)

高校生による広島派遣発表

平和資料館

資料館の中には被曝する前の広島の姿から始まり、被爆した物品の展示や、広島の惨状、今でも苦しんでいる人もいる原爆症の恐ろしさについて展示されていました。この資料館で、見たものを忘れる事はないでしょう。それほど惨状を、痛みを、悲しみを見たのです。原爆はこれほどまでに恐ろしいものなんだと、より一層感じました。広島市に落ちた原爆の恐怖は風化されてよいものではありません。まさに、人類が忘れてはならない負の遺産です。

原爆とは戦争という愚かな行為の中で生まれてしまった、今後絶対に使われてはいけない忌むべき兵器である、と改めて実感しました。そして一番感じたことは、戦後75年は草木も生えぬ、と言われたあの広島が、今は何棟もビルが建つ都会になっていたのをこの目で見て、人間の根性と諦めない精神は、今でも受け継がなければならないな、ということです。

忘れてはならない

後世に残すべき負の遺産

原爆は恐ろしいもので、
二度と使われて良いものではない

平和記念式典



平和記念式典は、1947年8月6日に開かれた平和祭というものがルーツにあり、1951年に今の平和記念式典という形になって、今まで続けてきました。今年は120の国と地域の大統領などを含む、過去最多となる約5万5000人が参列しました。

全国の自治体から平和学習や、平和大使として、同じ年代の人たちが多く参加していました。原爆死没者名簿の奉納、慰靈碑への献花などが終わり、午前8時15分。平和の鐘の音とともに参列者全員で黙とうをしました。静寂に包まれ、聞こえるのは鐘の音とセミの鳴き声でした。

周りには同じく黙とうし、ともに平和を祈ったたくさんの人々。会場にいるすべての人の心が一つになった気がしました。自分と同じく平和を願っている人がたくさんいることを改めて実感しました。言葉では言い表せない感動を感じました。黙とうの後は平和宣言、平和への誓いがありました。私は、広島市に住む二人の小学生が読み上げた、平和への誓いが特に心に残っています。二人は各国の代表者をはじめとした多くの参列者、様々なメディアを通してこの平和記念式典を見ている世界中の人々に向けて、堂々と訴えていました。その姿とメッセージにとても感動しました。

「たとえ一つの声でも、
学んだ事実に思いを込めて伝えれば、
変化をもたらすことができるはずです。」

心に残ったその言葉を皆さんに紹介します。
「たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。」という言葉です。世界平和、それは困難な道かもしれません。

しかし、これから一人一人が過去を学び、平和を願い、たとえ小さな声だとしても
人が声を上げ、周りのひとに伝わり、この平和記念式典のようにみんなが一つとな
って訴えれば、いつか必ず平和は実現すると感じました。そして先頭に立って声
を上げるのはこれからを生きていく私たち自身であると感じました。

ひとりひとりが平和を願い。
声を上げていくことが大切

この平和記念式典を通じて、平和を願うたくさんの仲間がいること、広島平和記念式典はあの日を思い、平和を願う大切な時間であるということ、広島から世界に平和を発信する場としてこれからも式典が続いていることを感じました。そして、一人一人が平和を願い、たとえ小さくても声を上げていくことが大切だと感じました。戦後80年、そしてこれから平和の声を上げていくスタート地点として、今後の人生で忘れることのできない貴重な時間となりました。

全国こども平和サミット
～Peace for Smile,
Smile for Peace～

全国こども平和サミットに参加し、そこで広島の被爆、復興の様子を疑似体験できる映像の視聴や被爆体験講話の聴講、詩の朗読、全国の学生の平和への取り組み発表を見てきました。被爆体験講話では、直前まで普通に話していた人が一瞬で帰らぬ人になってしまった原爆の威力、恐ろしさを感じました。被爆体験記朗読会では、当時の小、中学生が書いた被爆体験記や原爆詩をいくつか朗読していただきました。短い詩の中に原爆の恐ろしさが詰まっていると感じました。戦後80年経った今でも小・中学生の詩が語り継がれ、多くの人の心を動かし続けているのは、子供の目に映った当時の状況を真っ直ぐな言葉、表現で伝えているからだと思います。

詩を朗読してくださった方が詩をまず目で見て、耳で聞き、最後に声に出して読むことが大切だとおっしゃっていました。見て、聞いて、声に出すことにより深く心に刻まれるのではないかと思います。



原爆ドーム（「広島平和記念資料館（旧広島産業奨励館）」）は単なる建物ではなく、静かに、しかし確かに、平和の尊さと命の大切さを語りかける存在だと深く実感しました。広島市立袋町小学校（原爆投下直後に被災者の救護所として使われ）で壁に残る伝言や記録を見て、混乱の中でも人々が必死に助け合った姿を想像すると、胸が締め付けられました。現場の痕跡や被爆者の証言を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えています。

教科書や写真だけでは分からない現実を
目の当たりにすることで、平和の大切さを
改めて心に刻むことができる、かけがえのない学びの場だと感じました。

- ・戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えている
- ・目の当たりにすることで平和の大切さを心に刻めた

平和学習の集い

原爆被害の説明と被爆体験証言

グループディスカッション

全国平和学習の集いでは、ユース・ピース・ボランティアの皆さんによる原爆被害の概要説明・被爆者による被爆体験証言の聴講、そして全国の小・中・高校生とのグループディスカッションが行われました。私と同世代の多くの方が平和のために積極的に活動していることを知り、自分がこれから考えていくべきこと、取り組んでいくべきことを実感する良い機会になりました。原爆被害の説明と被爆体験証言では原爆が投下された日の様子を市民目線で感じられる動画を視聴し、その後、当時5歳で被爆した岸田さんの被爆体験を聴講しました。岸田さんは、証言活動と出会い、外国の方が涙を流しながら聞いてくれたり、学生が真剣な眼差しで学ぼうと

してくれる姿に勇気をもらっているとおっしゃっていました。その期待に応えるためにも、出来事だけを伝えるのではなくそのときの気持ちや感覚を伝えていきたい、そして伝承していく私たちにも被爆者と同じ声色、感情で伝えていってほしいと熱い想いでお話ししてくださいました。

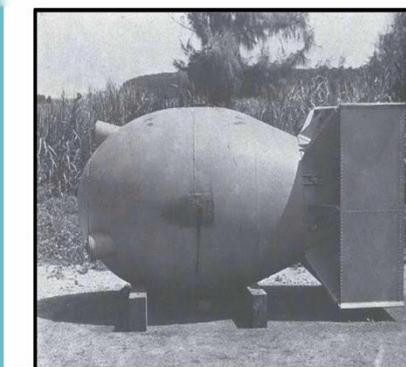
グループディスカッションでは、全国から来た学生の皆さんとグループになり2つのテーマをもとに話し、考えを深めあいました。1つ目のテーマは、自分の地元での第二次世界大戦における被害についてです。各地域の被害をその地域に住む学生から聞くことで、より想いが伝わってきました。いわき市の戦時中の出来事も伝えました。パンプキン型爆弾は、現在の平第一小学校に落とされた爆弾で調べてみるとこれは原子爆弾の模擬爆弾として落とされたもので、長崎に落とされた原爆と同じサイズだったそうです。平和資料館に展示されていた、模擬爆弾が投下された場所の地図にも、いわき市での出来事が展示されています。また、風船爆弾は、焼夷弾を搭載した無人の気球で、市内の女学生や若い女性が過酷な製造仕事に動員され、1945年5月、アメリカのピクニック中の子供を含む家族6人の尊い命が奪われました。

自ら学ぶことはもちろん、地域として風化させてはいけないこれらの出来事を子供たちだけでなく多くの方に知ってもらうために学ぶ機会・きっかけを作る必要があると感じました。

2つ目のテーマは平和といえる状況について話し合いました。私のグループでは、平和とは戦争がないこと、国際情勢の改善など難しく、私たちには手が届かなうことだけではなく、生活していて、心身ともに安心して暮らせることが平和といえる状況であると考えました。全国の学生と話すことで、自分にはなかった視点、解決策、などを共有することができました。そして、ここにいる学生みんなが平和について学び、考え、伝えようとしていると思うと胸が熱くなり、私たち若い世代にできること、私たちにしかできないことをこれからも実行するべきだと広島を訪れて、改めて強く感じました。

いわき市の被害・状況

・パンプキン爆弾・風船爆弾



まとめと今後の展望



広島を訪問する前は戦争や原爆についてどこか他人事で授業で習う程度の知識しか持っていました。そして、原爆が投下されたということに目が行きがちでその前後の広島の様子や戦況についてなど全くと言っていいほど知りませんでした。80年前ということもあります、あまり実際に起きたこととして捉えられていなかったように感じます。だからこそ、戦後80年、いわき市非核平和都市宣言40周年の節目の年に開催されたこの企画に参加して現地に行かなくては知ることの出来ない当時の状況や人々の思いを知り、高校生の今だからこそ持てる気持ちをいわきに持ち帰り周りに伝え、広島の方々の平和に対する思いを広げていきたいと考え、事前にたくさん勉強をして広島へ向かいました。

実際に広島を訪問して被爆建物の見学や被爆者の方の証言を聞くことでこんなに悲惨な出来事が同じ日本で起きていたという事実を痛感しました。原爆で飛び散ったガラスが食い込んだ壁が今もなお、残されていたりなど、広島の街の至る所で原爆の痕跡を感じることができます。教科書などで学ぶだけではなく、実際に現地を訪れ、話を聞き、目で見ることで当時の状況に思いを馳せ、平和の尊さを実感することができました。

【次世代へ戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていくために】

私たちが現地で学んだ貴重な経験を同年代の周りの友人、家族や兄弟に伝え、少しでも当時のことに興味関心を持ってもらい、そうすることで少しずつ平和の輪を広げていけたいです。実際に広島の中・高生は戦争や原爆、平和について詳しく勉強をし、ボランティア活動などで被爆者の方の証言や記憶を伝承していく活動をしていました。私たちもそのような取り組みをすることで被爆者の方から受け継いだ思いを発信していきたいです。若い世代が核兵器廃絶や平和の尊さについて声を上げることが大切だと思います。これから世代、戦争を経験した人がこの世からいなくなってしまった後を担う私たちが平和に関心を持ち、2度と同じ過ちを繰り返さない、繰り返させないという強い意志で世界に訴えていく事が重要です。この発表を聞いてくださったみなさんが以前よりも広島について知りたいと思ってくださったり、平和についての興味が湧いてもらえたなら嬉しいです。日常のどこかで平和について考える機会が増えることを願っています。

次世代へ戦争の悲惨さ、
平和の大切さを
伝えていくために

現地で学んだこと、思いを
身近な人に伝える

興味関心を持ってもらい
自分事として考えてもらう

核兵器廃絶・平和の尊さ
について声を上げる